

**房室結節リエントリー性頻拍に対してクライオアブレーションを実施された**

患者さん、ご家族の方へ  
(臨床研究に対するご協力のお願ひ)

獨協医科大学埼玉医療センター循環器内科では、房室結節リエントリー性頻拍に対してクライオアブレーションを実施された方の診療情報（カルテ情報）を使用し、当院での単施設臨床研究を実施いたしております。本研究に該当する可能性のある方のご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また、ご協力いただけない場合であっても今後の治療に不利益を受けることはございません。

本研究への協力を望まれない患者さんおよび本研究の詳しい内容（実施計画書・関連資料等）について閲覧になりたい方は、下記の【問い合わせ先】までご連絡をお願いします。

**【研究課題名】**

房室結節リエントリー性頻拍に対するクライオアブレーションの有効冷凍焼灼部位の検討

**【研究の背景と目的】**

房室結節リエントリー性頻拍は突然頻脈が出現し突然停止する不整脈です。正常な心臓電気回路とは別に遅伝導路という電気回路が存在する方に起こる不整脈で、遅伝導路を介して心臓の一部を電気が回り続けてしまうことで起こります。治療法としてカテーテルで遅伝導路を焼灼することで電気が回り続けないようにします。しかし遅伝導路は正常な電気回路と近接しており、それを傷つけると脈がととても遅くなる房室ブロックという合併症が起きます。高周波アブレーションでの焼灼が主流ですが、2016年にクライオアブレーションという冷凍焼灼術が承認されました。冷凍に伴う固着によりカテーテルが安定的に保持され、冷却中に房室ブロックが出現してもすぐに手技を中止すれば高率で改善できることから、徐脈による恒久的なペースメーカーの植え込みを避けやすくなります。クライオアブレーションはまだ新しい技術であり情報が少ないことから、成功した治療部位とその特性を調べることで有効性と安全性がわかり、今後の治療の選択肢として大きく貢献できると期待されます。

**【対象となる方】**

2018年1月1日から2021年12月31日までに房室結節リエントリー性頻拍に対してクライオアブレーションを受けられた患者さん。

#### 【使用する診療情報】

性別、生年月、年齢、問診内容、身体所見、心臓超音波検査、抗凝固薬・抗不整脈薬の種類、非薬物療法の詳細、再発イベント、有害事象等

#### 【研究期間と参加予定人数】

本研究は 2021 年 6 月の臨床研究倫理審査委員会承認後、80 人の方に参加して頂く予定です。

#### 【個人情報の保護】

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを特定出来る個人情報は削除して使用いたします。また、使用したカルテ情報を廃棄する際も個人情報を削除して廃棄いたします。収集したデータは、個人が特定できないように通し番号など付記したのち、研究代表者の厳重な管理のもとで保管され、解析が行われます。

#### 【結果の公表】

本研究の研究成果は、関連する学会で発表されたり、関連雑誌に投稿される予定ですがその際も患者さんを特定できる個人情報は公表いたしません。

#### 【研究責任者】

獨協医科大学埼玉医療センター 准教授 中原志朗  
343-8555 埼玉県越谷市南越谷 2 丁目 1 - 5 0  
048-965-4924 (医局直通)

#### 【問い合わせ先】

埼玉県越谷市南越谷 2 - 1 - 5 0  
獨協医科大学埼玉医療センター 循環器内科 准教授 中原志朗  
電話番号：048-965-4924 (医局直通) 受付時間 月～金曜 9：00～17：00

以上